

令和2年度 学校自己評価システムシート（県立志木高等学校）

目指す学校像	志木高スピリット（立志・言志・続志）の下、高い志を持ち、自分の夢を実現できる学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 学習習慣の確立と授業改善により、主体的な学びを推進し、学力を向上させる。 志木高スピリットを醸成させ、夢の実現に向けたセルフマネジメント力を身につけさせる。 安心・安全な学校生活を保障し、学校生活に誇りと自信を持たせる。 地域とともに歩む、魅力ある高校づくりを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価（2月1日現在）			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<現状> 授業公開週間や教員研修を実施するなど、学校全体で授業改善に取り組む意識が醸成された。平成30年度から生徒用手帳「Shikidiary」を活用した学習の自己管理に取り組んでいる。 <課題> 新型コロナウイルスによる休校等に対応するため、ICTを活用した学習支援の充実が急務となっている。また、急速に進展する情報化社会を主体的に学び、生き抜く力の育成がより求められている。学習習慣の確立とともに、生徒の実態に即し、ICTを活用した授業の工夫・改善及び、より効率的、効果的な授業計画、実施が求められて	①生徒一人一人が主体的に学ぶ学習支援体制の充実 ②生徒の「主体的、対話的な深い学び」を実現する授業改善への取組	①・プロジェクトチームを中心に、HP及びGoogleClassroomを活用した自宅学習の支援、個別指導のあり方を研究、実施 ・学年及び教務が連携し、「Shikidiary」を活用した学習習慣の確立及び、自己管理指導に取り組む（通年） ・新聞を活用し、社会的視点を醸成し学びに向かう態度を育成する。 ②・各教科が連携し、ジグソー法等を用いた授業改善に取り組む。 ・ICTを活用した授業改善をおこなう。 ・授業アンケートを活用し、授業者と評価者（生徒）双方から授業を改善する。（授業アンケートの実施10月） ・授業公開週間において教員相互で授業を見合い、授業改善について協議する。	①HP・GoogleClassroom活用状況 課題提示回数、動画配信状況 各教科、HR担任による手帳活用指導の状況 手帳通信発行状況 新聞の各教科における活用状況 ②ジグソー法等を用いた授業実践状況 ICT活用研修の実施状況、授業実践状況 授業アンケート実施状況及び結果 研究協議の実施状況			
2	<現状> 進路意識を高めるため、体系的な進路指導や手帳を活用したセルフマネジメント力の育成に取り組んでいるが、夢の実現に向けた目的意識を持って学校生活を送れない生徒もいる。 <課題> 進路意識を高めセルフマネジメント力を育成するために、生徒用手帳の更なる活用の工夫が必要である。また、保護者に向けた進路情報の発信の機会を増やし、更なる協働体制を築く必要がある。	①進路意識を高め、夢の実現に向けたセルフマネジメント力を育成する。 ②保護者の進路意識を高め、家庭と連携した進路指導をおこなう。	①・志木高スピリット（立志・言志・続志）を常に学校全体で共有することにより、進路目標の明確化、日々の学習への目的意識向上に取り組む。 ・早期から計画的な準備・対策ができるよう、模試、補講等の指導体制を整える。 ・自習室、ICTの活用等、生徒の進路希望に応じ、学習習慣の確立に向けた支援を行う。 ②・保護者向けに進路情報を提供し、保護者の進路意識を高める。 ・生徒用手帳「Shikidiary」を三者面談に活用し、目標を明確化し、「保護者・生徒・学校」の協働により進路実現をサポートする。	①志木高スピリットを自覚している生徒の割合 模試の参加人数、補講開講数および参加者人数 自習室の活用状況 家庭学習（自学自習）時間の状況 ②保護者の学校行事等への参加状況 保護者向け進路行事実施状況（年2回以上） 進路情報の発信（HP、スマート連絡帳年5回以上、進路通信年2回） 三者面談におけるで手帳の活用状況 進路目標具体化の状況			
3	<現状> 注意喚起や見守り指導により、落ち着いた学校生活は確保できているが、SNSによるトラブルや交通事故等の未然防止には至っていない。 <課題> 学校内外での危機管理能力を育成し、トラブルを未然に防ぐことが課題である。また、学校生活に誇りを持たせるためには、生徒に自己有用感を持たせるとともに、学校行事の充実や部活動定着率の向上が必要である。	①事故防止と良好な人間関係づくりを支援し、安心・安全な学校づくりを進める。 ②生徒の自主的な取り組みを支援し、学校生活に自信を持たせる。	①・PTA、地域と連携するなど、校内外における交通安全指導を実施し交通マナーに取り組む。 ・携帯・スマホマナー教室の実施やポスターの掲示等によりSNSによるトラブルを防止を啓発する。 ・スクールカウンセラーを活用し、教育相談を充実させ、全職員の共通理解の下、個に応じた指導体制を作る。 ・探究プログラム委員会を中心に自他を尊重する心を育む教科横断的な学び、探究活動に取り組む。 ②・地域交流活動の運営に、生徒会を中心に生徒が参画する体制を作り、生徒の自己有用感を高める。 ・学校行事や部活動で成功体験を積み、学校への帰属意識を高める。	①校外交通安全指導の実施状況 年間重大交通事故件数 携帯・スマホマナー教室実施状況 サイバーパトロールからの報告件数 スクールカウンセラーによるカウンセリング、特別支援委員会における情報共有の実施状況 人権感覚プログラム、在り方生き方教育等の実施状況 ②地域交流活動や地域貢献活動に参加する生徒のべ人数 部活動定着率 学校行事に意欲的な生徒の割合			
4	<現状> ホームページをリニューアルし、情報発信を積極的におこなっている。地域に根差した学校として、地域貢献活動を積極的におこなっている。 <課題> 地域とともに歩む学校となるためには、本校の教育力を地域に発揮し、開かれた教育課程を実現する必要がある。平成31年度に作成した「志木高未来予想図」の実現に向けた体制整備が課題である。	①志木高校を中心とした地域交流の輪を広げ本校の教育力を地域に発揮する。 ②志木高校の魅力づくりの推進	①・本校を会場とした地域交流活動「志木高倶楽部プロジェクト」を実施する。 ・HPを本校の教育活動や魅力を地域に発信・交流する場とするとともに、生徒、保護者にとって有益な情報交流の場として活用する。 ②・将来構想委員会を中心に引き続き、未来予想図の実現に向けた検討を進める。 ・教育課程委員会を中心に、令和4年度教育課程実施に向けた課題の整理及び対応策を作成を行う。 ・探究プログラム委員会を中心に生徒の課題に即した「総合的な探究の時間」の内容を検討する。	①「志木校倶楽部プロジェクト」実施状況及び生徒の参加状況 学校ホームページの更新、活用状況 ②教育課程委員会の開催、検討状況 探究プログラム委員会の開催、検討状況 「総合的な探究の時間」学習プログラム作成状況			

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日 令 和 年 月 日	
学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等	